

民の未来と革命的武装現地の成否かけ

農地防衛と地主



No.229
1982.2.5

マルクス主義学生同盟中核派
京大支部
京都府下京区寺町通松原上る京極町四九七
西田元 TEL 075-311-6147

「農地死守・詰し合」 拒否と反対同盟

守りぬき、二・二五

三・二八 10万決起へ

すべての学友諸君、

三里塚現地におけるぬきさことなら、一攻防がついに開始された。
一切の成否をかけた攻防が、他ともなく今、現地三里塚で火を放
いてくるのだ。

二二二が正気場だ。開始された現地攻防にすべてをかけて勝ちぬ
き、反対同盟を防衛せよ、三・二八を歴史を分かつ十萬決起と
して実現せよ。全人民の怒りの頂点でわが革命的農業的農地は
は國家暴力を撃ちのめすだろう。勝利の醍醐味を知った巨万の人
民は武器をとて起り、共に空港突入・占拠・解体へ攻めのぼる
だろう。かの「十・八」以上の衝動的感動が全国・全世界を駆け
めぐるだろう。

そうだと、二二二のすべてをかけて、今、反対同盟農民は日帝の全
重圧を裏向から受けたまゝ、自らの人生そのものに等しい農地を
全人民の正義と未来のために死守しぬいているのだ。

昨年来、ついに日帝二期强行本部長服部経治らが現地に侵入し、
甘言と「強制収用になつたらおしまいたくなる恫喝をもつて、二
期用地内反対同盟農民の前に立ち現われた。反対同盟はこれを一
喝し、叩き出し、以降現地は全学連パトロール隊が二十四時間制
圧している。

緒戦において決定的勝利をおさめた現地攻防の示している二二二
は何か。

(第一に)、四空整闘決定を経た日帝が、あくまで一期工事强行
を企んでおり、國家暴力を背景にすえた反対同盟破壊を最大目的の
課題としていること。

(第二に)、同時に日帝は、七年強制代耕行において、一人の大
木よねが立ちほだかたことによって、三週間にわたりて内乱的
総反撃の再来を心配していることだ。



1.19 福田正隆 せん滅ひきつぎ
正義の赤色口号を革命アーチにかけよう。

(オ三二) 田地内反対同盟と先頭に進軍の「農地死守」、田畠トロ隊園才ハマニテアカシヤの通路構造に赤色トロールが「話し合」を組成した確信も高く實力で、わが田核、眞實やおとて連絡を行ひた。

兵を先頭に四万の武装攻撃が叩きつけられたから、これが「三里塚は日本の中堅に転化する」といふ。一十九八九年最高幹部福田正隆重セヘ滅の戦、田武義等の一環として、蜂起への武装攻撃品を新規してこの諸君の

つづちで人財自身の未來を防ぐ。わざと再告、蜂起を實質する戰にてある。そして十一、一〇名城大生といた。あとで勝利のためにたたかっておいた。それをかげて、わざとせらうとした、無告やれた決戦の怒りと表現した正義の鉄鎧である。

の勝利のために、其にたたかれて

五倍した現地攻防の重大性、死活性を明らかにする。そしてかかる軍事行動のために、國家暴力を運動した「三里塚一無年戦」革命的武装斗争の死活性、刀、槍を武器にした人民の敵、二一年の戦闘を、共にたたかじめ、勝利しあう。百姓を一度はつめりやせあや。

A 二甲子隊の「庄和子」と吉村。

五倍した現地攻防の重大性、死活性を明らかにする。そしてかかる軍事行動のために、國家暴力を運動した「三里塚一無年戦」革命的武装斗争の死活性、刀、槍を武器にした人民の敵、二一年の戦闘を、共にたたかじめ、勝利しあう。百姓を一度はつめりやせあや。

現地攻防と、一九戦斗をもつて激烈一海撃いた、農地強奪・農民殺しを凶行する田舎の勢と、有事立法体制の向むかを、銳く示してこなだだ。総じて、軍事大國化と反動攻撃の、他二十九八年にさかなか最重要の軍事的攻撃をなだめた。

三里塚抗争は人民の歴史を刻んだ

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪の「庄和子」抗争の、田舎と反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚農民は、半人民の正義と、反農地強奪の「庄和子」抗争の、田舎と反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、動員千葉一三〇〇をはじめ、全国の全ゆう

諸隊員をたたかへて、一揆がつておこし、「復路を内乱へ

の路線と思想で結ばれた強固で広範な戦線が日本階級

と培かれてきた人民の士氣と精神との融合感

を引き取り、暴力的專制的に田舎しておられる所であ

NO「城内平和」確立のための原の庄和子攻撃はいた。

の

「三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

三里塚は、半人民の正義と、反農地強奪との既成主義や反革命田舎、ナクマラなどと、当初から手を切り、革命派との同盟のもと、勝利の大道を進んでいた。

畢竟農じたるか。

(オ三三) 暫定開港(七九年)以降四年間、反対同盟は

微動だにせず勝利の方針を貫徹した。既成事案の大重圧と強制収用の喝喝と反対同盟を解体したことだが

この四年間の日帝の最大の狙いだった。あらゆる弊害たる懷柔にも、耐えがた「公」害にも、日常的な機動隊のテロ、リハーサルこそ、田地内反対同盟を底頭に三里塚芝の戻し、「農地死守・詔じ拒否」(十二・二七声明)「難だた

山区域の反対同盟全体はついに倒せば、又強制港を田舎の死重に転化し、今日の決戦情勢をひきおこしたのでした。

誰でありますと、どうな理屈をつけよう、勝利の方針を放棄する」とは語りやがれ。

「農地死守・詔じ拒否」(十二・二七声明)「難だた同志の報復をかげ、あらゆる武器を手にしん、反戦平和の未来をかけ二期没戦に突入する」(十一・一宣言)これが、まだが勝利の道である。勝利に向け戦斗的決起を開始した反対同盟のそとなり音となつて今では同盟を離れた。そして、革命的武装斗争の爆発で、必ずや国家権力

の暴虐を打ち砕つた。

原則を賣り、武装抵抗を發動せよ。

直ちに現地に駆け参せよ。

B 110年代階級斗争の存否

をかけた決戦

が、三に、三里塚一期没戦の勝敗と110年代階級斗争の關係におけるのである。

戦争と革命の時代、徳川的動乱の時代としての110年

代基調「日帝と人民の絶対非和解性、へ侵略を内乱へ」の不可避性とは絶対に叶うる今日的表現として「三里塚」の激烈さが取るのである。

三里塚斗争の偉大さ、歴史的勝敗の鮮明さ、非和解性、根柢性、全人民性など正義性は、三里塚の勝敗を一人三里塚の勝敗に終らせるものたりえない。

全人民の苦腦の元凶一起りと打倒の標的「帝国主義の動向はどうか。

米帝動向の恐るべき特徴

米帝レーダンは、

①これまで通りの戦争挑発政策を凶行し、世界戦争の最

甚の放火者として登場している。リビアへの戦争挑発。

イスラエルを侵攻してシリア侵略。北朝鮮への戦争挑発。南アフリカを侵攻してアバドニア侵略等は、ほんの一端である。

②実際に核戦争をひきおこして勝利するの

と「核軍拡、核戦争政権を採る」

③帝国主義世界体制を盟主自ら破壊し、危機と戦争の中で、独日、英仏帝国主義の無準備を衝撃めぐらし、軍事戦略を探つて居る。

一度の世界戦争が後半帝国主義独占導だまし、軍事拡張の策劃を果たした帝国主義戦争であったのに比し、現在の世界危機は、基輔國の地位を喪失したとはいはずむが、英國主義がまさに「死滅しつつある資本主義」(レーニン)であり、歴史的生命力を失つて、ヨロシクアードにすつぶやく、破壊してしまつてある。

かかることで日本関係は①全般的通商廢擡、②經濟關係全般の衝突、対立 ③それが外交、防衛とリンクされ、すでに排外主義的煽動の領域に移行しあつてゐる。

今や日本は、対米、対アジア、対オーストラリア、王室、対中国支配のすぐことをかけた戦後の關係の終焉算にのみさり、へ侵略と軍拡のための／＼安保であり、へ右から内乱としての／＼改憲するのだ。

『五六五年版防衛白書』は、①現存國家体制を称揚して「東洋防衛」枠を打破して攻撃用軍備擴保をつくった。3
②米帝の地位低下を明記して経済大国にふさわしい軍事大国化を公言し、③

國防省は、軍事予算の毫無限的拡大の確定、「公海上で米軍物資運搬中の日本船が攻撃されただら自衛隊が出動する」などの措置、船密裡での有事国内法改訂の公言等が

乱発され、軍部、官僚の指揮が進んでいい。教科書への常軌を逸した攻撃が次々とかけられている。既成主義は、

恩の代價に償還と言わなくなつたはならない。しかし、うづくまにとつて絶望的である。明らかにが悪だ。

今一九三九年、情報部は軍事的機密を保護せり。

再び二十九年復辟の頃、加藤、田中、大庭が主導する「生産力の根柢に立つる日本の進歩」の論議が開かれた。

（四）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（五）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（六）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（七）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（八）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（九）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十一）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十二）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十三）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十四）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十五）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十六）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

（十七）「軍事的組織化主義」のへ立派」にして、

上級官僚は、生前の財政の任務体系の軍事的組織化を主張するものか。それでいつの年も何となく、日本は、又は、日本一樂の運営が何より重視されるべきである。

バルチサン戦形態の駆使（戦略的戦術的奇襲、強襲）と、界革命の人種生物学的高揚を旨とする。

それを裏面とする民族的政治的武装的動員との結合を通じて、革命的武装闘争を創造的（あめだし）にしには全人民の偉業をひきつけてローラシア世界革命に進撃していく総攻撃へのばかりつめていくことができるのだ。

したがて、以下のような語彙が死活的に要請される。

①反帝主義・反スターリン主義の立場 ②排外主義

とたたかい革命的祖国敵北主義を貫徹する」と ③内乱

内戦一途起、武装闘争 ローラシア革命の軍事網領

④人民内部の分派・族裂を恐れず、民族闘争・民間反革

命との内戦の直線のハイキニーでの激化・発展。

日本人民との革新党が日帝打倒への断固たるたたかいを期むことの世界史的意義というところだ。

国際的貢献としての日帝打倒

第四に、ロシア革命以降の現代世界の基調としての国際的大亂的死闘がすでに開示されていのハノ年代に、日本人民との革新党が日帝打倒への断固たるたたかい

を期むことの世界史的意義というところだ。

「自國政府の敗北」「帝國主義戦争を内乱へトブル

シヨブリーに対するアローラシアートの国際的闘争」

人類史の本史を切り替へたまには、アローラシアート

人民は」の闇門を避けて進むことなどできない。帝國主義

十國人民の起じ代わる（このだま）ない絶対的第一義的任

務的歴史的任務（こしが）にあるのである。

全世界で内乱的に決起する人民。ひとつ日本人民が二

度史の趨勢の例外たりづるだらうか。日本人民は、日

本の侵略・軍事大国化・戦争準備・帝國の核戦争政策に

して、屈服し、しばしの安寧を求める（この）に汲々（く）

して、かくのまゝ、全世界を収奪の対象としか考へない日本人民への怒りから、全世界人民によつて日本人たたか

いが待ち望まれてゐることである。

革新党の旗を高く掲げ、アローラシアート世界

革命の先頭に立て、

一 京大学生運動の革命的転換——一大飛躍か？それとも

歴史の要請と革新党の大方針こそ、わが京大学生運動の靈巣から、昨秋以降の若干の問題を提起しよう。

実践の方針である。かの「十・八・九のあり方—革新大學生運動の原点であり、十五年間にわたる主義派の立場のた

立場のた

一 要な地平

二 革新大學生運動の高揚——史上三段目（アローラシアート世界）

三 革新大學生運動の立場（アローラシアート世界）

(5)

北支那の政治運動の行方、その原動力としての軍事的運動

田中作付と北支那の軍事運動

「田中作付」は、豊田作付（大正12年）の略称で、大正12年10月27日付の田中義一の通牒である。

田中義一は、北支那の軍事運動に關する「北支那の政情」を主張する。この文書は、田中義一が北支那の軍事運動の原動力として、豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

北支那十日戰と最後の二勝利

二・勝利の大通りへ

北支那十日戰は、北支那の軍事運動を主導する田中義一が、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

北支那十日戰は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

北支那十日戰は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

北支那十日戰は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付と北支那の軍事運動

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

田中作付は、北支那の軍事運動を主導する豊田作付（大正12年10月27日付）を挙げて、北支那の軍事運動に關する意見を述べたものである。

三
卷之三

当面する任務は鮮明だ

三、一曰復讐報應，總兵官遇敵力士，以身殉國，成就可觀也。

丁出
彦永は對力

（オ）二、昭和的武装小説一画の興味（一）、

萬葉集卷之三

秀之でも知らぬ。」（前略）
「アーヴィングの筆は、この種の書物には珍らしく、

新編 日本の歴史

（アーリー） 売上高が伸び悩むのが、缺点の一つだ。

卷之三

總行不外乎爲「人」。人生與工作一貫是密不可分的。

（ヨリ三ヶ月後）一月の間、本の基礎知識を講習した。武装して戦うための筋書き。

「この改訂への意図は解説書で既に取扱うべきものではないが、

組織の自衛と武装においてすぐれた歴史的貢献(8)

「上場は数か月かかるので、一ヶ月以内に上市する」との見込み

は、歴史の井戸が、アーチ型の構造である。

八十九、山崎同志なら、津森、永田、辻、正田、
畠田、由山同志、本年一、一四七本、原田同志の對照

さて、國面の軍事承認の方針が之のまゝ同様失つて、常に軍事的実力で威嚇して、一個に化して、頗

卷之三

本居宣長著「日本書紀傳」卷之三

卷之三

全員の手で、日本一の経営力と口元力

卷之三